

河川工作物の取扱い等について

1 河川工作物改良の第2次検討

平成17年から19年度にかけて知床世界自然遺産地域科学委員会 河川工作物ワーキンググループが科学的に影響評価（第1次検討）した100基の河川工作物のうち要改良となった13基は平成24年度で全ての改良工事を完了し、サケ科魚類の生息環境等の改善が図られています。

今後は、当時、改良すればサケ科魚類の生息環境等の改善が図られる可能性はあるものの、改良に伴う防災機能等への全体的な影響が大きいため「現状維持」とされた35基について改良の可能性を再度検討していきます。（第2次検討ダム）

また、この35基のうち先行的に検討することが可能なダムとして、羅臼町側のオッカバケ川2基（林野庁）とモセカルベツ川1基（北海道）を選定し、次年度から現地検討を含め改良の検討を進めて参ります。



オッカバケ川の治山ダム（林野庁）



モセカルベツ川の治山ダム（北海道）

2 今年度のモニタリング調査実施

長期モニタリング計画及び第36回世界遺産委員会決議を受けて昨年度見直したモニタリング計画に基づき、以下の調査を実施しています。

(1) イワウベツ川（赤イ川、ピリカベツ川）、ルシャ川、テッパンベツ川、羅臼川、サシルイ川、チエンベツ川、ルサ川においてサケ類の遡上状況等を調査しています。

今年度はカラフトマスの豊漁年であったことから各河川において多くの遡上数を確認することができました。

例えばルシャ川においては、次のとおりの結果でした。

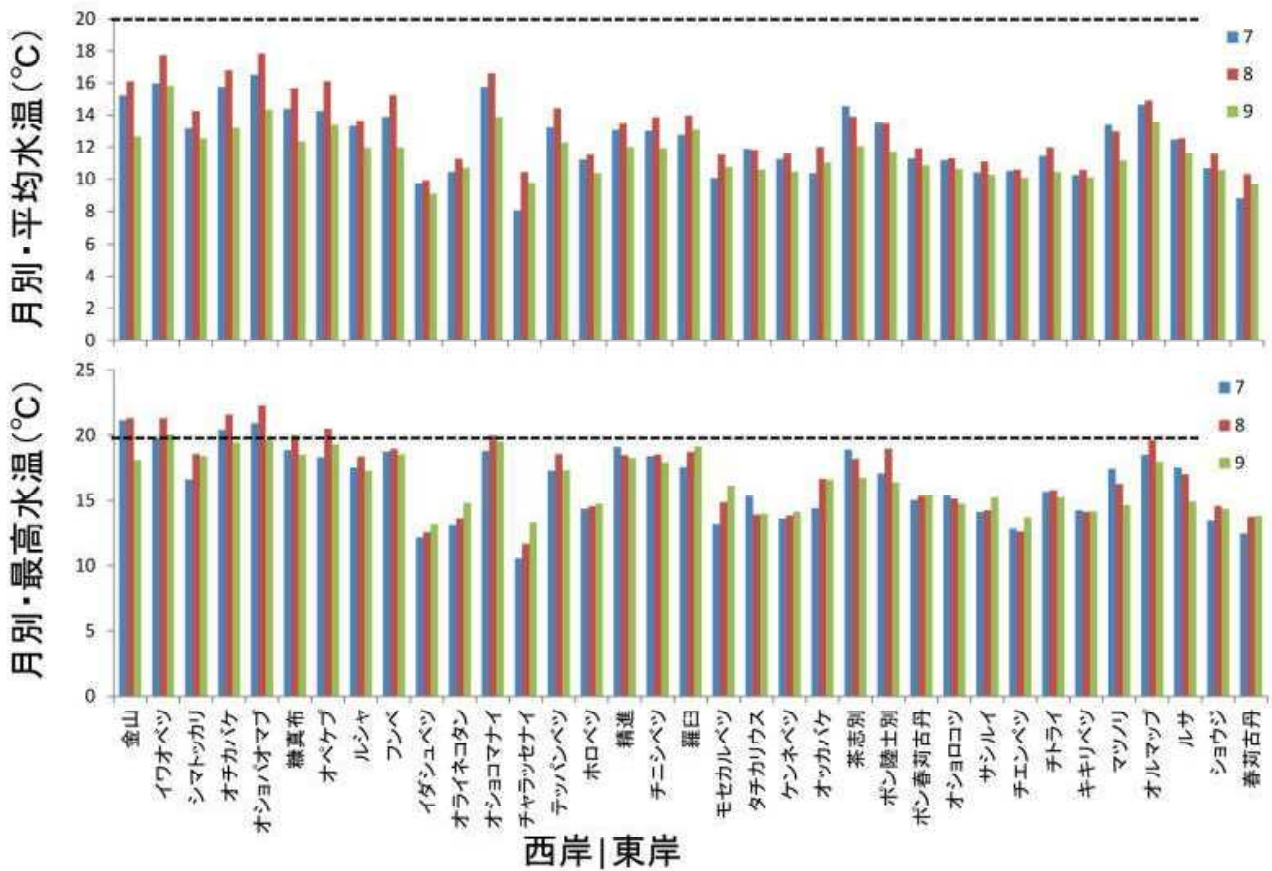
年	産卵床数 (個)	産卵床密度 (個/m ²)	推定遡上数 (AUC 推定値)	産卵床数／遡上数 (%)
H18 (2006)	1,793	0.016~0.061	58,000	3.1
H19 (2007)	3,256	0.027~0.120	36,000	9.0
H20 (2008)	2,271	0.009~0.087	10,000	22.7
H24 (2012)	376	0.003~0.026	19,905	1.9
H25 (2013)	1,805	0.033~0.067	58,236	3.1

注：平成20年までの産卵床数調査については、任意の区間（100m）を抽出した調査である。

平成24年以降の産卵床数調査については、全数調査である。

- (2) 6月末に36河川に水温計測機器を設置し、夏季の水温を記録しました。
 また、この河川のうち8河川においてオシヨロコマ等の生息状況を調査しました。
 今年度実施した水温の計測結果とオシヨロコマの生息密度は次のとおりでした。

2013年度河川別 7・8・9月の平均水温と最高水温



オシヨロコマの生息密度

